

◎定例会『社会見学』 国立科学博物館 見学

2024年7月4日梅雨時なのに快晴35度を超える猛暑日の中、参加者18名（男性11名+女性7名+同伴者1名）で見学をしてまいりました。

国立科学博物館（科博）は1877年（明治10年）に創立された日本で最も歴史のある博物館の一つであり、自然史・科学技術史に関する国立唯一の総合科学博物館です。昨年「地球の宝を守れ国立博物館500万点のコレクションを次世代へ」として一億円の資金を募りましたが24時間以内で目標を達成し、募集期限までに9億円以上の浄財が集まった事をご存じと思います。今回の見学はその膨大な資料のほんの一部が展示されている上野本館を見学いたしました。

1、日本館見学

日本館は昭和6年に竣工したネオルネッサンス様式の建造物です、エレベーターで3階迄昇り、南翼の「日本列島の素顔」で列島が様々な自然環境で多様な生物を育んできた豊かな自然の紹介、北翼の



「日本列島の生き立ち」で数多くの生き物たちの繁栄と絶滅を繰り返したダイナミックな変動の歴史、2階南翼「生き物たちの日本列島」170万年前から氷期と間氷期の繰り返しの中で移り住んだ生き物たちが日本列島に適応しつつ独自の分化を遂げた様子を動物は骨格見本と剥製を並べて比較で展示、北翼「日本人と自然」4万年前より渡航された人類が縄文、弥生時代を経て

現代に至る時代を辿り陳列、参観者の興味にあわせてそれぞれのペースで見学出来ました。



2、昼食

昼食は、収容人数が140人と多くまた恐竜の名前を冠したダイナソープレート・ジュラ紀ハンバーグプレートや恐竜アートが特徴のチョコレートドリンク等が含まれるメニューに特色のある「館内レストラン・ミュージオン」で致しました。



3、地球館見学

地球館は、地下3階地上3階+屋上と多くの展示室があるため自由行動に

しました。館のテーマは「地球生命史と人類」と題して星の成り立ちから宇宙への探訪、人類の知恵の歴史を辿る壮大なテーマで代表的な館を紹介いたします。1F「地球史ナビゲータ」宇宙史、生命史、人間史の壮大な物語をテーマにした標本・資料・時間の旅を語るシンボルゾーンです。B1F「地球環境の変動と生物の進化」（恐竜の謎を探る）写真の骨格標本はティラノサウルスが向かい側に陳列されているトリケラトプス獲物を狩るためし



また現代の爬虫類と鳥類は全く異なる生き物ですが最近の研究では小型恐竜には羽毛が生えており展示されたTレックスも羽毛があったかもと想像を掻き立てられますね。

<7月定例会 報告：比与森賢実>

